

ちよっと大人になった夜。

今でもあの晩の事ははっきりと覚えてる。
もう40年程前の、小学校4年生の初夏の夜だった。
なぜ、それを観よう、と思っただかはわかりません。深夜
のテレビの洋画劇場でボツンと1人きり、両親や兄弟に
見とがめられずにその時間テレビを観ていた事自体が
10才の僕としてはほとんどキセキ。

「小さな恋のメロディ」を知っていますか？
主人公ダニエルとメロディはイギリスの小学生。親や
学校・周囲の期待と、自分達の想いの差に悩み、クラ
スメイトとの感じ方の違いにとまどいながら少しずつ成
長していく、「恋するなんてまだ早い！」という声をふ
り切っておちをする、というストーリー。

ラストシーンの、平原の中をまっすぐ伸びるレールの
上を手にぎとトロツコをこいで2人がひたすら走り去って
いく様子は、劇中の主人公と同世代の僕としてはちよっ
としたシヨックでした。親に知られずに夜ふかしをして
之を観る。アニメやヒーローものしか知らなかった頃、
自らの意志で洋画を観る、生まれて初めての出来事が一
晩にぎゅっと詰まった夜だった。

次の朝、学校へ行って、クラスの皆に会った時、昨日
までの自分とは何かが違っていた事を今でもはっきりと
覚えてる。好きとか嫌いとか、良い・良くない・そ
んなものを計るモノサシが一気に大きくなったような感
じ。

僕が子供から、ちよっとだけ大人になった夜。
(児玉理)

カフェ・シエトラッセ
<http://kaftee-strasse.blog.oon.ne.jp/>



5 5号(6月号)です。

夜のさんぼは、長野県朝日村の創っている人が作っているフリーペーパーです。毎号編集して思っているのですが、文章を書くのって本当に奥が深いですね。人に伝わるように、簡素に美しく、そして熱量を失わず。難しいです。普段何気なく読んでいた文章たちですが、絵以上にその人の内面が出るように思います。
★46才の反抗期は今月お休みです。

12 13

今月のはんこ 



Vegetables

 hankoya.noraneko@gmail.com

朝日村つくりびとのブログも見てみてくださいね!
<http://asahinobijyutsukan.blog136.fc2.com/>
夜のさんぼのバックナンバーもこちらから読めます!

夜のさんぼ

朝日村の創っている人が作っているフリーペーパー

2012年 6月号(vol.5)



これからとお知らせ 特別版

今、ここ長野県朝日村に、現代アートを主としたギャラリー「TOU」をつくるプロジェクトがスタートしました。

ギャラリー「TOU」は、「問う」からつけられました。これは、作家から鑑賞者への問ひかけは勿論、鑑賞者も作家も作品を通して、作者や自分自身の「価値観を問う」場所であるという意味です。

日本人は世界一美術館に行く国民だそうですね。しかし、入場者が多い展示は過去の巨匠の作品が多い、つまりは「すでに価値が定まったもの」を見に行く層が多いだけで、現代アートなど「今現在生きている作家の展示」や、ギャラリーに行く人は極限られています。ギャラリーにあるのは「まだ価値が定まっていないもの」「これから価値の決まるもの」が大半であり、ギャラリーに行つて作品を見るという事は、「自分の知らない、見た事がないもの」に対して、自分がどう評価するのかという「自分自身の価値観を試しに行く」という事でもあります。なぜ日本はギャラリーに行く人が少ないのでしょうか。色々な要因があるでしょうが、「生活の中で身近に触れる場所が無いから」という事が大きいのではないかと思っています。

長野県は美術館が多い県です。ギャラリーもありますが、その多くはイラストや絵本、クラフト、陶芸が主となり、それはほぼショールーム化しています。「ここから未知の可能性を生み出し、その価値を問う場所」としてのギャラリーは

驚く程少ない。殆ど皆無と言って良いでしょう。特に若者が発表できる場所が圧倒的に足りていません。また、若い内に、未知の可能性に触れられる場所というの存在しない。その役目は全て東京など都心に集約されてしまっています。

身近にアートが存在しない、目に触れる事がない・・・その結果、今の日本のアート界は「理解されない」「閉鎖的である」「見る人が限られる」という問題を抱えるに至っています。この問題を解決していくために、少子高齢化の進む、周りには山と畑と田んぼしかない、人口1000人のこの長野県の真ん中から、世界を変える力のある新しい可能性を、日々の生活の中で自然に目にできるようにしていきたい。作家が、自分のアイデアを形にしたとき、資金や期間の面でもっとハードル低く展示ができる場所を提供したい。

最初に述べたように、日本人は世界一美術館に行く国民です。潜在的に芸術への関心は高いのです。今まで見た事のない芸術の世界でも、色々なものを見るうち、興味や関心が出てくるでしょう。

「新しいものを見る事・体験する事は、とても面白くて、ワクワクする事だ！」それを伝える為に、TOU projectは始まりました。「TOU」から何が生まれていくのか、どうぞご期待下さい！

言葉にならない形のはしっこ vol. 5

「どこかも知らない世界の今日」について

たまには自身の絵の解説でもしてみようかと思いましたが、展示の時に聞かれたらば答えるのだけど、作品一つ一つを文章にして解説するという事は滅多になくて、そもそも作品一つがどうこうというより、複数の作品でテーマを表現している事が多い為、コンセプト文で大体解説は終了している事が多いのだけど・・・

画像の作品「どこかも知らない世界の今日」は、2015年3月の個展「この星の子ども」に出品した、縦1.6m、横2.6mの作品です。登場するキャラクターの、スーパースター君(左)と魔法少女ちゃん(右)は昨年8月の個展より自分の絵に始めました。このキャラクターは今生きる子ども達の代表として描いています。今の子供達は、生まれながらにして「この世界を救う」という宿命を負わされています。生まれたときから救世主たる事を望まれているのです。しかし、世界を救う方法を彼らは持っているのでしょうか。そして、世界を救うヒーローに立って上げられた子供達は、一体誰が救えるのでしょうか。

昨年の震災、特に原発事故によって私たちの生きる世界は非常に危ういものの上で成り立っていたという事が明らかになりました。震災から世界が変わったものが見えただけで、世界の見えな様は変わっていないのです。

この作品で描かれている舞台はファンタジーですが、それは今まで私たちが見なかつた(気がつかなかつた)見ようとしなかつた)現実世界の中身です。

背景に描かれている団地は、現実世界とのリンクを表しています。団地という外からは見えませんが、これらも確かに存在しているであろう人々の人生の集合体である団地・・・それに心引かれ、ファンタジー世界との橋渡しをしてもらっています。団地のそばに居る小さな人形は、顔のない、行動も曖昧な虚ろな大人達です。

この作品を始め、今年3月の個展で発表した作品は、描いているモチーフやテーマなど、今まで私が描いてきた作品の意味が全て一つの表現として集約されたような感覚を覚えました。コンセプトは震災前と後と変わらず、この世界の本当のありようを描きたいと思っていたのですが、先に述べたように、震災を経て自分が何を描こうとしていたのかが明確になったという感じでした。

自身の作品についての解説は中々文章のみでは難しい所があるのですが、また機会を見て何か書ければいいかなと思っています。